

1. 岡山大学の理念・目的・目標

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の目標

教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

【参考】 岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 本学は、広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、その成果を広く社会に提供することにより、世界文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 岡山大学文学部の教育理念・目標、ポリシー・コンピテンシー

科学技術の急速な発展やグローバル化の進展の中で、「人間とは何か」という問いが、以前にも増して重要になっています。私たちの学部は、この根源的な問いに、人文学の様々な分野から総合的にアプローチすることを特色としています。人間が長い歴史を通じて築き上げてきた豊かな知的遺産に学び、それを現代に生かすという課題に取り組みます。また、従来の学問の枠組みにとらわれず、人文学内外の多様な領域との協力・連携を積極的に推し進め、新しい人間像の構築に努めます。

文学部の教育においては、古典や外国語文献の読解、資料の調査と分析、フィールドワークなどを通じて、専門的知識を修得するとともに、柔軟で幅広いものの見方を身につけることを重視します。そのような教育を通じて、次のような人材の育成を目指します。

- ・ 過去から現代にいたる人間の営みに強い関心を持ち、日本や世界の社会・文化についての幅広い教養と国際的な視野を持った人
- ・ 人間知にかかわる知見と素養を備え、人文学における高度な研究に携わる基礎的能力や意欲を持った人
- ・ 課題を探求する意欲と能力を持ち、論理的な思考とそれを的確に表現する力量を備え、様々な分野で活躍できる人

文学部ディプロマポリシー（DP，学位授与方針）と各DPに対応した文学部コンピテンシー（観察可能な能力）

人間性に富む豊かな教養【教養】

人間・社会・自然の多様な問題に関心を持ち、人間が長い歴史を通じて築き上げてきた豊かな知の伝統を継承しつつ、人文学における様々な探求に携わる上での基礎的能力を身につけている。

コンピテンシー：人文学における基礎的学識，人文学における基礎的技法

社会に貢献できる専門性【専門性】

専門的な学識とそれに基づく技能，とりわけ古典・外国語文献の読解，資料・作品の分析，あるいは実験・調査を行う能力を習得し，それらを通じて社会に貢献することができる。

コンピテンシー：専門的な学識，専門的な技能，専門的な学識・技能の活用法

効果的に活用できる情報収集・発信力【情報力】

人類史の過去と未来を見渡す幅広い視野に立ち，必要な情報を収集・分析し，的確な文章力を駆使してそれらを発信できる。

コンピテンシー：情報収集力，情報分析力，情報発信力

時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化の進展，価値の多様化の中で「人間とは何か」という根源的な問いをいだきつつ，論理的思考力，異文化理解力，外国語運用能力に裏付けられたコミュニケーション力を用いて，積極的に行動できる。

コンピテンシー：論理的思考能力，異文化理解力，コミュニケーション能力，課題を発見・解決する力

生涯にわたる自己実現力【自己実現力】

旺盛な知的的好奇心，豊かな感性，先入観に惑わされない公正な思考，自分を客観的に把握する能力に基づきながら，自立した個人として生涯にわたって自己の成長を追求できる。

コンピテンシー：学識・能力を自ら運用する力，日常的な自己研鑽力

文学部カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部人文学科には，「哲学・倫理学」「芸術学・美術史」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学・社会心理学・臨床心理学」「歴史学・考古学」「言語学・現代日本語学」「日本語・日本文学」「外国語・外国文学」の8つの教育分野があり，授業科目は大きく教養教育科目（30単位必修）と専門教育科目（94単位必修，卒業論文14単位を含む）に分かれます。

1年次には，教養教育科目として，「知的理解」「言語」「実践知・感性」「汎用的技能と健康」「導入教育」を履修するとともに，「人文学の論点」「人文学入門演習」で大学での学習・研究の基礎となる知識や方法について学びます。また，2年次以降に履修する専門教育科目として，各分野の学問の基本体系を学ぶ「人文学概説」，各分野の研究の技法を実践的に学ぶ「実践演習」，各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」，卒業論文の作成のための実地指導である「課題演習」を開設しています。演習科目においては少人数教育を重視し，ディスカッション等を通じて，生きた知識が身につくことを目指します。

学生は，入学後，アカデミック・アドバイザーの支援を受けながら，どのような知識や能力を身につけて卒業するかという4年間の学修計画を主体的に立案します。自らの問題意識に従って，特定の分野の学問を深く究めることも，複数の分野にまたがって履修したり，学際的な研究テーマに取り組んだりすることも可能です。

※文学部ディプロマポリシーで示す各学士力に対応したカリキュラムポリシーは，岡山大学公式ホームページに掲載しています。